

特別展「西アフリカ おはなし村」 open

7.

バオバブの木の下で 2003.7.24. - 11.25.

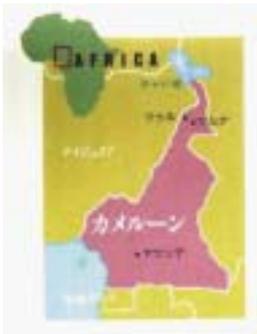
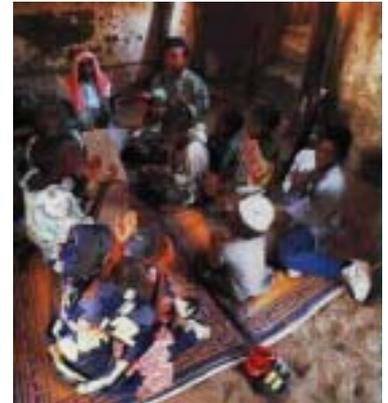
〔西アフリカ おはなし村 ガイド〕 2003. 8. 20.



7月24日オープンした国立民族学博物館「西アフリカ おはなし村」と
会場中心にそびえ立つ「バオバブの木」モニュメント

「西アフリカ おはなし村」というのは カメルーンほかの西アフリカの
草原に暮らすフルベ族 文字を持たないこのフルベの村を国立民族学博物
館の特別展示館に再現。

生活の一部として語り継いできた「むかしばなし = 語り」や音楽を通し
て、この西アフリカの自由な昔話の世界を「語り合い、伝え合い 触れ合
い」大人も子供もみんないっしょになってこの村の暮らしを楽しめる体験
型の素晴らしい空間となっています。



「西アフリカ おはなし村」のモデル 西アフリカ カメルーン フルベ族の村

1. 国立民族学博物館特別展「西アフリカ おはなし村」ガイド
〔「おはなし村」で聞いた西アフリカの昔ばなしも少し収録〕
2. 西アフリカ マリ国立舞踏団の音楽と踊り

7.1. 国立民族学博物館特別展「西アフリカ おはなし村」ガイド

「バオバブの木」って 知っていますか・・・



ものすごく ユーモラスな大きな木で西アフリカの村の象徴。西アフリカの人達にとっては 親しい それでいて 神聖な木。不思議な木です。

この大木を会場の中央に設え、この木の周りに、屋敷や大日よけと呼ぶ「おはなし」や「ジャンベ太鼓」を一緒に楽しむ場などを設けています。

西アフリカからやってきた語りべのウンマハーニばあさんは「おはなし村」を「西アフリカの自分たちの村にいるような気分だ」とすっかり気に入っています。

入り口で、西アフリカの帽子と貫頭衣をつけて みんな村民になって、村に入場。

語りべを取り囲んで周るく車座に座って、身振り・手振り・表情をまじえての「独り芝居」に近い楽しい昔ばなしを聞いて・・・

気軽にジャンベ太鼓をみんなで気軽に合奏すれば、もう みんな 陽気な西アフリカ おはなし村の仲間。西アフリカのことば「フルフルデ」を教えてもらって 村の中を廻って 声掛けて 楽しく挨拶・・・

村を出るときには みんな陽気な西アフリカ通





この「西アフリカ おはなし村」 村]

村長の江口一久さんは民族博物館のユニークな言語学者。

30 数年 カメルーンに研究室を持ち、文字を持たないフルベ族の「むかしばなし」を集め、学問的に体系化すると共に 絵本や日本各地でのおはなし会などで広くこのフルベ族の「むかしばなし」を紹介。その集大成として 大人も子供も楽しめるこの「西アフリカ おはなし村」を企画。

神戸で親しくしている中年仲間のひとりで 江口さんのお話会などがおもしろくて 時折 参加。 そんな関係で「西アフリカ おはなし村」にも参加することになった次第。



「西アフリカ おはなし村」村長 江口さん

民博 特別展「西アフリカ おはなし村」 開館までは 展示設営と会場でのイベント等の連携でもう「てんてこ舞い」。

若いスタッフが走り回り、声を挙げて言い争っていたり、かつての見本市や welding show ・エレクトロニクスショウの当時を思い出しながら、僕にはこれといった役ないのですが、仲間たちの活気の中にある自分に喜んでいました。

オープンにあわせて パリからやってきた夫妻の案内やアフリカから「おはなし村」のスタッフとしてやってきた「村民」の人達の手続やら・・・結構大変でしたが、7月24日から オープンして、やっと落ち着きました。

「西アフリカのおはなし」

日本の昔ばなしに良く似た話もあるので・・・

次から次へと語られる西アフリカの楽しい「おはなし」

これらの「おはなし」には 文字を持たないフルベの人たちが、時代を越えて 楽しさと共に子供達に伝えてきた生活の知恵が一杯。

たくさんの語りべ ボランティアさんが約1.5年かけて練習・準備したと聞きました



ハイエナが色々失敗する話 や 妖怪の話 王様 や 金持ちのピラーリさんの話などなど

王さまや村の娘やシラミやいろんな動物が次から次に登場してくりひろげる楽しいお話

また、日本の昔話に似たお話もあります。「うさぎとかめ」や「はなさかじいさん」が「ママこの娘」の話で登場。でも 日本のお話とちょっと違う展開・・・「道端のシャレコウベ」がぶつぶつ話しかける話も

みんなで合奏 ジャンベの太鼓

その迫力とリズム 西アフリカを体一杯に感じる瞬間です

全くの素人から約15分で おとなも子供もみんなの前でアフリカの人たちと一緒に合奏。
合奏にあわせてバオバブの木の前で踊りだすひともいて・・・・・・・・。
アフリカのリズムと熱気をみんなで体験出来るとは本当に感激です。



2F 展示場に展示された「西アフリカの染めと織り」

村の周りの展示場には 西アフリカの生活を現すさまざまな収蔵品や西アフリカの鮮やかな色・紋様の布や服が展示。



日本の着物と同じく その紋様や色・染め・織りに歴史があり、意味が村の人達によって代々受け継がれて、今見てもその斬新さに目を奪われます。



2F 展示場に展示された西アフリカの染めと織

西アフリカ おはなし村の街角で みんなで踊って



2003.8.3. 「マリ国立舞踊団のおどりと音楽」のあとバオバブの木のまわりでみんなでおどりました
もう みんな 盆踊りののりで・・・・・・・・

「展覧会」というと堅い展示と思いがちですが、ちょっと 手前味噌ですが、村の中に入って、その雰囲気の中で色々な人に出会い、体験して帰る気楽なパフォーマンス型の場のように感じています。



西アフリカ フルベのおはな



し

【ウサギ と かめ】

おはなし おはなし

うさぎとかめはなかのよいお友達でした。

うさぎは「きみは のろいなあ もっとはやくできないのか・・・」といて、かめをからかいます。かめはこれがしやくでたまりません。

きょうもからかわれたかめは「うさぎくん そんなにいうなら、あした日が上がるのをあいづに、ぼくとむこうの木のところまで、きょうそうしよう。 ぼくが勝ったら ぼくを「おにいさん」とよんでくれるかい・・・」

「ああ いいとも ぼくがのろまなきみにまけるわけがないじゃないか」

村にかえったかめは村のみんなに明日うさぎときょうそうすることを話しました。

「そんなの 勝てっこないよ」とみんなはくちぐちにいます。

「ぼくに いい考えがある 勝つために みんなきょうりよくしてよ。 みんな帰ってぼくと同じくらいのおおきさの友達をあつめてきてよ 絶対にかつから・・・みんなのめいよもかかっているのだから・・・」

そのばん かめくんの家には沢山の友達があつまりました。

「みんな たのむよ 今からぼくの話すとおりにしてよね。 みんなで絶対かとうね」

「いいかい きみはあの岩のかげに隠れていて うさぎ君がうしろを振り向いたら飛び出してはしるのだよ」「きみはあの丘から やっぱり うさぎ君が見え、うさぎ君が後ろをふりかえったら とびだすのだ。」「きみは あそこから」

「まみはあの岩のところから」「最後のきみは あの木の横にかくれて、うさぎ君が振り返ったら飛び出して テープをきるのだ。 みんな たのむよ みんなでうさぎ君に勝とうよ」

つぎの朝がきました。「おはよう かめ君 やめた方がいいよ ぼくが勝つと決まっているのだから」

お日さんがのぼりはじめました。「ヨーイドン」ときょうそうが始まりました。

うさぎはびよんびよんとかめ君の前を走り抜けていきます。

振り返りながら「かめ君はくちさきばかりで・・・もう みえないじゃないか」と前をみるとかめ君が前の丘を「おいっちに おいっちに」と走っているではありませんか

「いつの間に・・・」ともうスピードでうさぎ君は走ってゆきます。

「もう 大丈夫」と丘をかけぬげ、ふりかえって 前をみると また かめ君がまえにいるではありませんか・・・

もう うさぎ君もひっしで走っています。 でも かどをまがって、まえを見ると やっぱりかめ君がいるではありませんか・・・「もう すぐゴール」だ。うさぎ君もひっしです。

とつぜん 目の前がまっくらになり うさぎ君はぶったおれてしまいました。

かめ君はみんなのおかげで 一番でテープをきりました。

これで このおはなしはおしまい。

【ハイエナの夢】

おはなし おはなし

ハイエナは肉を食べている夢をみました。肉はよくこえていました。ハイエナが目をさますと肉がありませんでした。

ハイエナは先生のところにいって たずねました。

「夢でみたことが、どうしてそのとおりにならないのですか」

先生はいいました。

「ハイエナよ あしたからおまえさんの見る夢は、本当になる」

ハイエナは横になって、ねむりました。またしても、ハイエナは夢をみました。夢のなかで、ハイエナはおいかげられ、つかまり、縄でしばられ、殺されかけます。

目をさますと、ハイエナはしばられていませんでした。

さて ハイエナは先生のところにいき、

「わたしがみた夢がほんとうになるといわれましたが、ほんとうにならなくていいです」といいましたとき。

お話は おしまい

2003. 8月 おはなし村 「おはなし = 語り」より採取



西アフリカ フルベのおはなし

